

自発的、自治的に学級生活を送る生徒の育成

—生徒主体による話し合い活動を通して—

特別活動班 木暮 直隆（中学校教諭）

【課題】

生徒が自分で考え、主体的に動くことができない

Step 1

こんな課題をクリアする実践です



Step 2

話し合いをして、よりよい考えを生徒達自身で、考え出すことができない

Step 3

自分が所属する学級なのに、自分や他人を認めることができない

※「課題のステップ1・2・3」と「実践例のステップ1・2・3」は、リンクしています

実践例

Step 1

【活動】生徒主体で学級会の進行をする

① 今までは、先生の話しで生徒が活動していた。

② まずは「本活動」から決めていきます。
★こちらの案について何か意見がある場合は、賛成案は残り 12の案に5人5分の意見反対案は消す
最後は確認の16分です

13分

③ 次に「本活動」を決めます。
決め方は本活動と同じ。

12分

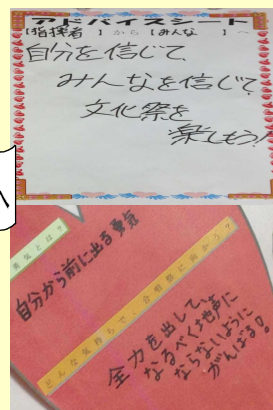
活動計画書

【手段】
① 計画委員を輪番制で行う
② 活動計画書の作成をする

自分達で考え主体的に動くことができた

事後活動へ

Step 3 に関係した事後活動



合唱祭のアドバイスを、友達にアドバイスを送ることで、自己有用感を高めることができた!

みんなで行事に向けた目標を書きといて、学級への所属感を持つことができた!

事後の活動でも、自己有用感や学級への所属感を持ち、他人や自分自身を認めることができるようになる!

Step 2

【活動】クラス全体で話し合って、意見をまとめる

意見がまとまらない場合は、何度か意見を言っていくことが肝心よ!

【手段】
① テーマに対して、意見を言う
② その意見に対して、他の人は賛成・反対の考えを述べる
③ 折衷案・合体案の意見をまとめていく

話し合いをして、よりよい意見を学級で考えることができた

Step 3

【活動】学級会の中で、意見を交換する

曜日ごとに科目を決めて10人3組に分けてその日の授業の復習を自主的にやる

班の話し合いの付箋

【手段】班になり、付箋を使うことで、意見の交流を活発にしていく

意見を交換する中で、友達に認められ、自分を認めることができた

成果

- 計画委員会を設立し、活動計画書に基づいて学級会を進めていくことは、生徒の自己有用感を高め、自発的な力を身に付ける上で有効であった。
- お互いに賛成反対の意見を出し合い、互いを認めあうことにより、学級への所属感を感じることができ、自治的な学級を作っていく上で有効であった。

課題

- 出し合う→比べ合う→決定する場面での時間配分の工夫が必要である。
- 生徒が計画委員として、円滑に学級会を進めるには、経験を積むことが必要である。

学級でしっかりと発言できて良かった。どんどん意見を良い、学級が良くなるように活動をしていきたい!



話し合い後の生徒の感想

提言

- ① 計画委員を輪番制でまわし、クラスの生徒全員が経験できるようにしましょう
- ② 活動計画書を必ず作成するようにしましょう
- ③ 意見が出たら、他の人は、必ずその意見に対して、反対・賛成の考えを述べましょう
- ④ 意見は、多数決で決めるのではなく、合体案・折衷案を考えましょう
- ⑤ 事後の活動を通して、お互いの意見を認め合う場面を作りましょう

